



2020年11月13日

各 位

会 社 名 株式会社フォーシーズホールディングス
代表者名 代表取締役社長 天童 淑巳
(コード番号 3726 東証二部)
問合せ先 執行役員管理副本部長 上 畠 正 教
(TEL. 092-720-5460)

棚卸資産の評価損及び特別利益、特別損失の計上並びに2020年9月期通期連結業績と 前期実績値との差異、個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、本日2020年11月13日開催の取締役会において、2020年9月期の連結決算において、棚卸資産の評価損及び特別利益、特別損失の計上を決議するとともに、本日付「2020年9月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表した2020年9月期の連結業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、当社は当該期間に係る業績予想を公表していないため、増減につきましては前期実績値との比較となっております。

また、2020年9月期の個別決算においても、前期実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 棚卸資産の評価損及び特別利益、特別損失の計上並びにその内容

(1) 棚卸資産の評価損(売上原価)の計上(連結)

当社の連結子会社である株式会社フェヴリナ及び株式会社Cureの棚卸資産について、コロナウイルス禍による既存顧客の買い控えや海外旅行客の減少によるインバウンド需要の大幅な減少に伴い、今後の販売予測を保守的に見直した結果、一部の商品、貯蔵品に対して棚卸資産の評価損76百万円を売上原価に計上することといたしました。

(2) 固定資産の減損損失の計上(連結)

当社グループの保有する固定資産について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、当社の連結子会社である株式会社フェヴリナにおける事業用資産20百万円及び当社における建物附属設備等の固定資産33百万円の合計53百万円の減損損失を計上することといたしました。

(3) 関係会社株式評価損及び関係会社貸倒引当金繰入額の計上(個別)

当社の連結子会社である株式会社フェヴリナに対する出資について、同社の業績悪化等による減損の兆候が認められることから、当子会社株式について帳簿価額を回収することが困難であるとの結論に至ったため、関係会社株式評価損332百万円を計上することといたしました。それに伴い株式会社フェヴリナに対する長期貸付金についても債務超過相当額である213百万円の関係会社貸倒引当金繰入額を計上いたしました。

なお、関係会社株式評価損及び関係会社貸倒引当金繰入額は、個別財務諸表のみに計上されるものであり、連結財務諸表への影響はありません。

(4) 投資損失引当金戻入額の計上 (個別)

上記の連結子会社である株式会社フェヴリナ株式会社に対する関係会社株式評価損の計上により、前期計上いたしました投資損失引当金を取り崩し、投資損失引当金戻入額 187 百万円を計上いたしました。

なお、投資損失引当金繰入額は、個別財務諸表のみに計上されるものであり、連結財務諸表への影響はありません。

2. 連結業績と前期実績値との差異について

(1) 2020年9月期 連結業績と前期実績値との差異 (2019年10月1日～2020年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前期実績 (A)	1,958	△231	△226	△367	△54.08
当期実績 (B)	1,967	△397	△405	△464	△68.02
増減額 (B-A)	9	△166	△179	△96	—
増減率 (%)	0.5	—	—	—	—

(2) 差異の理由

当社グループが属する化粧品業界においては、コロナウイルス禍による新しい生活スタイルへのシフトにより消費者が化粧品に求めるニーズは大きく変わりつつあります。その中で、コミュニケーション・セールス事業においては、Webプロモーション強化により売上高は対前年に対して増となりましたが、広告宣伝費や新規事業の譲受費用、新規商品開発費用への先行投資による販売管理費の増加、化粧品卸事業においては、訪日外国人旅行者の激減により、インバウンドの化粧品マーケットは壊滅的なダメージを受けており、衛生コンサルティング事業においては製品紹介を目的としたセミナーや展示会の全面停止や飲食店の営業停止などコロナウイルス禍による影響は非常に大きく、さらに上記の通り棚卸資産の評価損及び特別利益、特別損失を計上したこと等から予想を大幅に下回る業績となりました。

3. 個別業績と前期実績値との差異について

(1) 2020年9月期 個別業績と前期実績値との差異 (2019年10月1日～2020年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前期実績 (A)	300	△1	△1	△373	△54.91
当期実績 (B)	365	54	57	△316	△46.27
増減額 (B-A)	65	56	58	57	—
増減率 (%)	21.8	—	—	—	—

(2) 差異の理由

上記の個別業績と前期実績値との変動は、「1. 棚卸資産の評価損及び特別利益、特別損失の計上並びにその内容」に記載の「(3) 関係会社株式評価損及び関係会社貸倒引当金繰入額の計上 (個別)」及び「(4) 投資損失引当金戻入額の計上 (個別)」に起因するものであります。

以上